



## 東日本大震災の地震保険の建物調査から帰ってきました！



3月22日、知り合いの工務店より、会社に地震保険の建物調査の依頼が来ました。東日本大震災は、被災したエリアが広すぎて、調査員が全く足りなく、被災者に一日も早く保険金を出したいけれど、調査が全然追いついていないので、1ヶ月間、被災地で建物調査をしてほしいとのことでした。会社は、今後、災害に強い家造りをするためにも、被災者と直接話し、自然災害の怖さを正しく理解して、家造りに役立てるようにしたいとのこと、私がその仕事をするようになりました。

出発までは、震度6の余震や東京の水から放射能が検出されるなどのニュースが出て、承諾したものの、少し後悔したり、出向先が茨城県との連絡が入り、少し安心したりしました。被災地は、食品や飲み物が足りないとのことだったので、バランス栄養食と麦茶とアルカリイオン水を車一杯に用意しました。

いよいよ、3月31日、茨城県水戸市に向かって、午後8時に大阪を車で出発しました。途中、東名高速のインターチェンジで3回ほど、休憩をとりながら、4月1日午前10時頃に、水戸市に着きました。

午後1時に日本興亜損害保険の水戸支店を尋ねました。既に21名の調査員が前日より全国から来ていて、私は一日遅れで参加しようでした。一日目は、先ず地震保険の調査マニュアルを読むように言われ、一人でマニュアルを読み、最後、調査から帰ってきた調査員と一緒に夕礼に参加です。私を入れて、全国から集まった調査員は22名。その22名が保険会社の社員さんと2人一組で調査に回ります。保険で調査しなければならない家は茨城県だけでも1万軒あると言われていまして、一組が一日8軒回っても、2ヶ月はかかることになります。これは大変なことになりそうと覚悟しました。ところで、日本興亜損害保険の事務所は9階でしたが、震度3・4の余震が常に起るので、エレベーターは止まってばかりでした。そのたび9階を階段で上り下りすることになりました。

茨城県に行く前は、建物調査の為に車があった方が良いと言われたので、車で行ったのですが、調査はタクシーで移動するため、乗っていった車はホテルの駐車場に駐車しておくことになりました。

ホテルも8階の部屋でしたので、しばしば、エレベーターが使えず、階段を上り下りすることになりました。途中、階段の壁が、震災の時の亀裂がところどころ見られました。

2日目からいよいよ建物調査です。被災地に来たと言っても、水戸市の人達は、普通に生活を、店舗なども普通に営業していました。時々、震災の影響と見られる閉店もありましたが、それまでと変わらず活動しているように見えました。道路のあちこちに液状化現象と、地盤沈下の後が見られましたが、至って、平和な感じです。

1軒目のお宅は、室内のクロスがびりびりに破れていました。それ以外は、基礎が少しひび割れている位で、特に損傷しているようなところはありません。クロス破れは査定に関係せず、被災者にはかわいそうな気がしましたが、一部損になりました。

2軒目のお宅は、やはり、室内のクロスやタイルが破れたり、割れたりしていましたが、これも査定とは無関係で、基礎の割れている部分（もともとひび割れていたかも？）を震災の為にということで、又、外壁もひどく割れていたのが、半損になりました。



結局、一日目は5軒回れただけでした。



茨城県は、宮城県や岩手県のように見渡す限りがれきの町とは違いますが、やはり、震度6強の地震がきた被災地です。北茨城市の海沿いは、津波により倒壊した建物や床上浸水した家もたくさんありました。でも、全体的に、一見して被災したという感じは受けません。けれど、家の中に入ると、クロス等が破れていたり、家財が散乱していたりと、地震のすごさを感じさせられます。

また、家によって、外壁の割れが多い建物や、基礎がボロボロになっている建物、一部の柱が折れている建物、地盤沈下して沈んでしまった建物、屋根瓦が全部落下した建物も見られました。



私が滞在中も震度3・4の余震はたくさんありました。

家屋の査定中にも地震が起きました。被災者の方には、余震の度に、3月11日の地震の状況が思い出されるらしく、顔がひきつり、恐怖で震える方々もいました。いつでも逃げられるように1ヶ月以上パジャマに着替えたことがない方。未だに2階に行ったことが無いという方もいました。

損壊した建物の補修の仕方を聞く方も多かったです。割れた基礎は、どうしたら良いの？ 傾いた家は元に戻るの？ 震度3・4の余震がいっぱいくるけれど、この家は倒壊しないの？ 会社では、私は勉強中の身ですが、保険会社からは、建築の専門家と紹介されますので、私が少し説明するだけで、被災者の方々が安心されるようです。（ちょっといい気分です！）

結局、私は、調査員不足の為、1ヶ月休み無しで調査をすることになりました。もう1ヶ月続けてほしいと言われましたが、会社の業務も溜まっているとのことで、断りました。1ヶ月ですが、多くの被災者の方と話し、多くの住宅を見る機会を得て、最後、少し寂しい気がしました。食料は全く足りていたのが、持参した食品や飲み物は全て持ち帰りました。

地震保険は、火災保険のように、損害を受けた家屋を元に戻す為の保険でなく、地震に合った後の生活の再建が目的ですので、最高、建物価値の半分しか保険金が下りません。また、クロスやタイルなどの損傷、地面がひび割れを起こしたり、擁壁が壊れたりした損害。それらも補修費用は発生しますが、地震保険からは、保険金は下りません。

新築でも外壁や基礎が損壊している建物、古くてもほとんど損傷していない建物、津波のような大きな力が働くと、どんな建物も全壊してしましますが、震度6の地震だと、建物の強度で大きくその被害が異なります。建物の強度が弱いと地震保険金もたくさん下りますが、補修費用も高額になります。当たり前と言えば当り前の事ですが、地震に強い建物は、家族の命を守ることはもちろん、地震後の生活再建を容易にします。また、自宅の強度に自信があれば、地震が発生した時の恐怖心が全く異なります。

改めて、地震に強い、丈夫で頑丈な家を建てること。そして、強い地震が来ても、家が倒壊することは絶対にありません！と胸を張って言うこと。そして、それによって、お施主様に100%安心して頂くこと。大地震に比べれば、ほんの微力なことは重々分かっていますが、私に出来る事を精一杯全うしたいと思います。

